

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100212		
法人名	有限会社 美大		
事業所名	グループホーム大河	大河	
所在地	宮崎市古城町長田5911番地		
自己評価作成日	平成26年9月13日	評価結果市町村受理日	平成26年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kanistrue&amp;livyosyoId=4500100212-00&amp;prefId=45&amp;versionId=022">http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kanistrue&amp;livyosyoId=4500100212-00&amp;prefId=45&amp;versionId=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年10月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームそばの小さな橋を渡ると、そこは散歩道です。田や畑、そして春は桜並木が、秋はたわわに実った柿や栗が入居者様を迎えてくれます。澄んだ空気に胸いっぱいにし、少年少女に返り、ゆっくりと心ゆくまで自然と戯れ、帰り道、橋の上から「また明日」と鯉さん亀さんにあいさつすると、もう我が家です。毎日いかに平穩に過ごしていただくか、ご本人ご家族のご希望を叶えるには、私達はどうサポートすべきか、皆で検討し、皆で実行した結果、車イスで全介助の方が車イスを自走され、思いのままに動かれる姿を見た時、また、オムツ使用の方が布パンツとなり、トイレでの排泄が可能となった時、ご家族も満足され、私達も涙しました。介護職としての大きな喜びであり、私達はこの感動を何度も得たいため、今日も明日も、坂の上の雲を求めて歩き続けます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会長を始め、ホーム全体で災害対策に取り組み、会議や地域を交えての防災訓練を盛んに行っている。夜間訓練にも力を入れ、連絡体制や備品準備・期限切れの見直しを定期的に行っている。自治会や運営推進会議に参加される地域の方々とも、なじみの関係ができており、ホームへの来訪が増え、果物や野菜を届けてくださったり、その都度、利用者との会話も弾んでいる。近くの保育園児や小学生に手を振って見送ったり、側で職員も笑顔で一緒に行っている。調査当日もその様子が見られた。自然の環境に恵まれ、食事もおいしく、家庭同様の生活が送れるよう職員全体で支援しており、家族の来訪も多い。8月には看取りも行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊厳を守り、地域に根ざした明るく楽しいホーム」の理念を掲示し、各自、始業前に読み上げ、日々反芻している。職員会議に経営者も出席し、理念に則ったサービスが出来ているかを協議している。	当初の理念を全員で話し合い、今まで以上に地域とのつながりを理念に取り入れている。月の定例会では、最初に理念について会議し、また、仕事始めにも唱和するなど、その日の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	古城保育園より行事の招待を受けている。また、古城小学校の行事への参加や資源物回収の協力等を行っている。自治会に加入し、地区行事にも招かれたり、市民一斉掃除等にも参加している。	自治会の会議に利用者も参加したり、買い物に行く時にも利用者を紹介するなど、地域とかけ込みやすい雰囲気づくりを全員で心掛けている。登校の時間に小学生に手を振って見送り、地域の方にも喜ばれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	赤江東中生徒の福祉体験学習、介護初任者研修生や訪問看護実習生を受け入れ、認知症の方の理解や支援方法を伝えている。また、地域の人を職員として採用し、今後共、地域と密に連携していく方針である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に家族会・運営推進会議を開催し、意見・要望・苦情等を出し易い雰囲気作りに努めている。また、出された意見は職員全員に報告し、早急な対応を心掛けている。	始めはなかなか意見が出なかったが、ホームの報告をすることで家族から意見が出るようになり、今では地域の方からもたくさんの意見が出るようになった。同時に、通りすがりの地域の方が立ち寄ることも多くなった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事は、積極的に市や地域包括支援センターに相談している。また、介護保険課は元より、社会福祉課、長寿支援課等とコンタクトをとり、入居者様の福祉の向上を志ざしている。	市町村の担当者とは連携が取れており、ホームのことだけでなく、地域の方からの相談も行っている。ホームでこれから行いたいと思うようなことまで相談できている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等は7時から21時まで施錠せず、敷地内入口も24時間オープンである。身体拘束に関してはマニュアルを作成しており、職員会議や勉強会等で常に協議し、ケアで拘束なしを実践している。	研修に行った人の復命研修をしたり、介護中に言葉遣いや態度で直した方が良いと思われる時にはその日のうちに取り上げ、拘束をしないケアを心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、また、職員会議の議題に取り上げ、全職員が日頃の介護を振り返る機会を多く持つことによって、虐待防止に努めている。特に、スピーチロックは互いに声を掛け合い、気を付けている。			

自己	外部	項目	自己評価	大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や後見制度について、職員会議で事業主及び外部研修を受けた職員から学んでいる。被後見人も入居されており、体験を通して、他のご家族にも制度の周知を図っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には十分に説明をし、日置いて疑問点、不明な点の質問を受け、十分納得の上で契(解)約を行っている。改定は必ず家族会で協議し、理解を得てから施行している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会には出席者の了承を得て運営推進委員も同席し、入居者様・ご家族の意見・要望の表出を促している。入口にはご意見箱を備え、出された意見等は教科書ととらえ、運営に生かしている。		家族の来訪が多いため、直接意見を聞く機会も多く、すぐ対処するようにしている。以前、名札の文字を漢字で小さくしていたが、家族からの要望で、名字だけを大きくし、見やすくなったと家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には代表者も出席し、思った事、考えた事を自由に発表できる場としている。また、日常も、花の手入れに毎日ホームに顔を出し、職員と触れ合い、出された意見・提案を運営に反映させている。		月1回の会議には、運営者も出席し、職員が困っていることを相談できる雰囲気づくりに努めている。何号室の前の植木が伸びすぎているとか、日よけがあった方が良いと言うと、すぐに取りかかり、提案を受け入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、希望休等の要望は受け入れられ、個々の事情により対応され、働きやすい環境にある。給与についても、消費税アップの影響分は全額を職員に支給する等、条件整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象に、各種研修会に積極的に参加する機会を勤務時間内に設けている。新たな資格取得者には、手当面で処遇している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病院系列グループホームと相互訪問の交流を行い、意見交換をし、良い所は積極的に取り入れている。また、GH連絡協議会にも参加し、見聞を広め、運営に生かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人との面接時に状況を詳しく聞き、ホームでの生活等について伝えていく。可能な限り、ご本人にも事前に見学してもらい、ご本人やご家族の要望・希望を聞き、全職員で検討して不安の解消に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームの雰囲気、職員のケアの状況等をご家族に見てもらい、入居後をイメージしていただいた上で、具体的な不安・要望をお聞きし、ご家族と協議して解決策を講じている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や今迄過ごされていた施設等からの情報を得て、入居者様に当面どの様なケアが最適かを判断し、住まいが替わる混乱を最小限にできるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各々の得意分野が発揮できるよう、これまでの生活歴を十分に把握し、調理・手芸・片付け等、生活全般において、人生の先輩として教を請うような人間関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に入居者様を介護しているという思いから、ホームの行事や家族会開催の案内等の連絡を密にとり、入居者様の現状を報告し、入居者様、ご家族、ホームの絆を大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	概してご家族様の面会も多く、一人ひとりの馴染みの場所、行きたい所、会いたい人を把握し、ご家族の協力を得ながら、これまでの生活の継続を支援している。	日頃の会話や行動、サインなどからも情報を得ている。家族の来訪時に相談をし、近所の方を連れて来ていただいたり、家族との外食や墓参りに行ったりすることができるよう関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士とても仲が良く、会話や笑顔が絶えない。また、よく声を掛け合い、助け合い、支えあっている姿が多く見受けられる。若干の相性の違いはあるが、適宜サポートをして、孤立状況はない。			

自己	外部	項目	自己評価	大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や自宅へ復帰された場合も、電話相談を快く受けている。場合によっては自宅や病院へ伺い、ご本人・ご家族の悩み等を聞き、アドバイス等の支援をしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の個性、価値観、生活のリズムを把握し、ご本人やご家族とよく話し合い、ご本人の思いの実現に努めている。意思表示の困難な方には表情等から推察し、ベターな方策を選択している。	車椅子から立ち上がる時に補助棒があれば立ちやすいと言う意見に対して、翌日には取り付けをしたり、手の不自由な利用者がトイレレットペーパーが取りにくいとの意見には落とし紙を置いたりするなど、一人ひとりの意向に沿った支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様・ご家族・入所前の施設等より情報を集め、習慣や好みを把握した上で、努めて今までの生活の延長線上で、ホームでの生活が送れるようサポートしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や排便等の詳しい記録内容の個別日誌等を通して、全職員で情報を共有し、異常の早期発見に努め、日々の生活の中で、残った機能の発揮をできるよう、様々なお手伝い等をお願いしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様毎に担当者を決め、ご本人と密な関係を構築して、ご本人の希望を汲んだ介護計画を作成している。毎日の個別記録を基に、ご家族や関係者の意見も充分採り入れている。	利用者、家族、担当職員、ケースワーカーも話し合いに同席し、来訪時に聞いた意見等も取り入れながら、介護計画を立てている。また、歯科医にも同席してもらい、その都度、状態に応じた見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は詳しく記録しており、職員は就業前に必ず目を通し情報を共有している。時には以前の記録も参考に、長期的に見た体調の変化も観察し、日々のケアや介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部研修や情報誌で得た新しい介護技術や接遇法を全職員で共有すると共に、学習療法士や住環境コーディネーターの資格の活用、更には毎月訪問していただく音楽療法士のアドバイスもいただき、ケアに取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア及び保育園・小中学校・他施設との交流、看護師協会や介護初任者研修生の受け入れも行っている。ホーム近くの散歩道は車の往来も少なく、野の花を摘んで自然に親しんでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望の掛かりつけ医を選ばれ、受診時には情報提供書を作成し、バイタル表のコピーも添えている。必要に応じて在宅療養支援診療所を活用し、24時間の安心を確保している。	本人や家族を中心に、希望する病院を利用しており、家族の要望があれば、職員も受診に同行している。医師への提出書類や病院からの書類も個別に丁寧に管理されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の正看護師がバイタルの値、体調をチェックし、訪問看護師とも意見交換をして、異常の早期発見に努めている。経営者である薬剤師も、健康管理、観察に携わっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診機会の最も多い近くの診療所とは、医師との連携もスムーズにとれ、相談事にも良く対応してもらっている。入院時には、日頃の生活の様子を必ず文書で伝えている。退院時には、配慮することなどを直接病院にも尋ね、スムーズにホームでの生活に戻れるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期の対応もご本人・ご家族と話し合っている。ホームでの看取りの経験も有しており、病気の進行や体調の変化で、折々にご家族とも協議し、ご希望に添える支援を行っている。	入居時に、本人や家族、関わる職員が同席し、看取りや重度化に対する同意書等を作成しており、一人ひとりに応じた支援をしている。昨年8月に看取りを行った際、職員の対応に対し、家族からも感謝されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急時研修には必ず職員を参加させると共に、職場内看護師からも学び、反復訓練を行っている。また、AEDも備え、使用方法も職員会議の際に練習している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の計画のもと、あらゆる災害に備えた避難訓練を行っている。大淀第5消防分団にも応援協定をいただき、近所の方には、天神ダムの水を引いた田からホースで消火作業を手伝ってもらうようになっている。	昨年度、目標達成にかかげた災害時の見直しについて、運営者、全職員で話し合いを行っている。防災ずきんを作ったり、夜間想定訓練を地域ぐるみで実施している。非常食等の見直しや点検も3か月ごとに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには十分に気をつかい、排泄誘導やオムツ交換時に耳元で小声で伝えたり、皆さんと一緒に楽しく食事ができるように、さりげなく介助したりと、各人の自立度、残存能力の相違を認識し、プライドを傷付けないように配慮して、その人に応じたケアを実践している。		トイレ誘導時、入浴、食事、散歩時にかかわらず、いつでも利用者への言葉掛けや行動ができるよう対応している。介護の折に、こう取り組んだら良かったと気づいた点があれば、その後職員が話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員や他の方との会話の中から、ご本人の希望を察知し、望まれているとおりのケアが出来ているかを確認しながら、サポートしている。意思表示の難しい方はご家族に相談したり、反応を伺い対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各人のその日の気分や体調を考慮し、目配り、気配り、思いやりを忘れず、本人のペースや希望を尊重している。業務を優先せず、一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各々の服装、髪形など、好みを把握し、サポートしている。理容師の資格を持つスタッフが、定期的にかットを行っている。身だしなみや清潔の保持に注意を払っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々リクエストメニューを取り入れたり、季節や旬を感じていただくように配慮している。スタッフも同じテーブルで同じものを食べ、各人の好みを観察したり、会話で食の楽しさを盛り上げたり、工夫をしている。残存能力保持の点からも準備、片付けを手伝ってもらっている。		カロリー計算された食事となっており、本人の希望を聞き、翌週にはできる限り提供できるよう努めている。時間を十分にとり、職員も利用者の間に座り、会話をしながら同じ食事をとっている。調査時に「私が頼んだとよ」とお煮付けを食べ、笑顔を見せる利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録して、体力の維持、体調の変化に気を配っている。おかゆや刻み食など、一人ひとりに合わせた料理形態や彩り、嗜好の尊重など、きめ細かく対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医のケアの指導をいただき、声掛け、誘導、看取り、一部介助、全介助、その人に応じた口腔ケアを毎食後行っている。			

宮崎県宮崎市 グループホーム大河(大河)

自己	外部	項目	自己評価	大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	目標はオムツ使用をなくし、自立でトイレでの排泄を目指している。各人の体力、気力等を考慮しながら、排泄パターンの把握、サインを見落とさないよう観察して、その人のペースに合わせて、トイレ誘導を行っている。	一人ひとりのチェック表を作成し、その人のサインに応じてトイレ誘導を行っている。尿漏れパンツ利用だった方が、職員の配慮により、布パンツへ移行するなど、オムツ使用をなくす目標に向けて、職員全員で取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩やウッドデッキを利用した自然に親しんだ適度な運動、室内で体を動かすレクリエーションを行っている。また、繊維質の多い食材やおやつにヨーグルトを提供する等、水分摂取にも気配りをして、便秘予防をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時は、各人の希望により決定している。意外と入浴を厭われる方が多いが、その理由は、入浴中の物盗られの心配、裸になる心細さや羞恥心にあると思われるので、不安の解消や温泉の話題を出し、入浴を楽しんでもらうよう工夫している。	女性が入浴する際、男性職員が介助することを嫌がる人には、同性介助にするよう気をつけている。また、個人の好みに応じて、夜間入浴もできるように配慮している。給食を1個食べ終わるまでの間に機嫌をなおしてもらい、誘導することもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体内時計の調整には、1日に15分程度の日光浴も必要と言われており、ウッドデッキに出ただき、ポットの花に親しんでもらっている。個々人の生活習慣を尊重し、夜間の不安には寄り添いを行い、安心していただけるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人毎に顔写真を載せた薬剤袋を用意し、併わせて薬の効果や用法・用量も記入し、服用時は複数の職員でチェックして、誤薬の防止を図っている。適宜、経営者でもある薬剤師がアドバイスをしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴、趣味を把握し、得意分野の活用を図っている。1号館、2号館との行き来で日常生活のマナーを解消したり、40鉢ほどのプランターの花を愛でたり、嗜好品のリクエストを受けたりと、潤いのある毎日を創出している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中で希望を把握し、豊かな自然環境の中にあるホームの利点を生かし、200m先の古城保育園などへの近場の外出は、臨機応変に行っている。ご家族の協力も得て、努めて外出の機会を創出している。	希望者には、コーヒーを飲みに行ったり、外食に行くなど、家族と相談しながら、要望に応じている。また、買い物を楽しむ方には、家族にその旨を伝え、一緒に外出していただくように依頼している。ホーム周辺の散歩で季節を感じ取ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理ができる方は、ご家族や関係者の了解を得て所持していただいている。病院受診時等を利用して買い物を楽しんでいる。自己管理ができない方は、職員がサポートしてショッピングに出かけている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を制限することなく、希望されれば自由に電話をかけたり、手紙を出すことができる。支援の必要な方には、スタッフが手伝っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は掃除等の衛生面に気を配り、強く五感を刺激しないよう配慮している。個室続きのウッドデッキで外気に触れ、遠くまで見渡せる環境下で、季節の移ろいや近くの古城小、保育園児の姿も見てとれる。		植物に興味のある人にはミニトマトやピーマンの鉢植えを準備したり、ホールには紙や毛糸の小物の作品、卓上には季節の野の花が飾ってあり、楽しく過ごせる工夫をしている。ホールに入ると利用者の一人が立ち上がり、壁の自分の作品を説明された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い方同士がソファーや食卓で、あるいはウッドデッキの椅子で語り合い、歌を口ずさんでおられる。会話に疲れたら、自分の好みの場所で独りになり、息抜きをされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が永く馴染んだ物や仏壇を居室におき、ご家族の写真や装飾品を持ち込まれ、時空を超えて、いまご家族や思い出と共に在る、という安心感のもとに生活されている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、随所に手すりがつき、安全面に配慮している。トイレや洗面所の場所を大きな文字で表示し、ホームの家具の配置を工夫して、自立した生活が送れるよう、サポートしている。			